

教団新報

定 価 1部 140 円 (本体 133 円 千共 200 円)
予約購読料 1 年分 千共 5,000 円
紙代のみ 3,500 円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
E-mail:shimpoh-c@uccj.org
発行人 竹 前 昇
編集主筆 竹 澤 知 代 志
印刷所 株式会社きかんし



近永教会 (四国教区・愛媛県北宇和郡鬼北町)

メッセージ

ルカによる福音書 12 章 22 ～ 34 節

小さな群れよ、恐れるな



芦名弘道

最も良くご存じなのは主ご自身

「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」(12・32)。
この言葉を最初に聞いたのは、全世界でたった十二人、ルカの報告によって広く捉えても七十二人の主の弟子たちです。一握りとも言えない無きに等しいこの群れに、「恐れるな」と主は言われました。

私たちは微少な群れです。将来への言い知れない不安は心を去りません。その不安を育てている根は、私たちの中にある恐れであることに、この主のお言葉の前に立って改めて気づかせられました。

教会の今後を憂い悩む心の奥底には、このままでは教会が消えてなくなるのではないかという恐れが常にあります。現実を打開しようと提示される知恵に富む方策も、力を込めた叱咤も、ついに虚空に吸い込まれるように消え失せてしまうのは、すべてがこの恐れから出ているからです。

その私たちに主は「小さな群れよ」と率直に呼びかけられます。小さきゆえの恐れ、焦りと無力のすべてを知り尽くしておられるのです。

神の手の中にある教会の将来

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

この世の常識で測ればあつてなきがごとき私たちが、神の前ではどんなにかがえのない価値を持つて立てられているか、どんなに深い配慮の中におかれていることか。主は「一羽の鳥、一輪の花の姿を通して明らかにしておられます。モーセは神の民が聖であるゆえんをこう語っていました。」

教会の明日は神が備えてくださる

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

この世の常識で測ればあつてなきがごとき私たちが、神の前ではどんなにかがえのない価値を持つて立てられているか、どんなに深い配慮の中におかれていることか。主は「一羽の鳥、一輪の花の姿を通して明らかにしておられます。モーセは神の民が聖であるゆえんをこう語っていました。」

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

を持つて、無から有を呼び出される神(ローマ 4・17、口語訳)が、小さな群れのただ中に立つておられます。

主は、その神の手の中にある教会の将来をはっきり見て、「恐れるな」と言われました。そして、「あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」と言われます。

神の国(神の支配)はすでに始まっています。主は「時は満ちた、神の国は近づいた」と言われました。しかし、そう言われて方が、根本は水車を回す水にこそあると考えつき、彼は川の研究に没頭する。そして、いつの間にか、彼の水車は、回らなくなり、用をなさなくなってしまう。

▼私たちは、聖書を読み、神学を論ずる。しかし、何のためにそれを行っているのかを忘れると、水車が回らなくなるように、私たちの信仰も枯渇してしまうだろう。ゲーテはファウストにこう言わせている「無駄とは知つつ神学までも」。

▼各教区総会宛ての挨拶文で、山北議長が「正しい聖礼典の執行」を強調したことが波紋を呼んでいる。▼表面的なことに留まるのではなく、そも聖餐式とは何かという一番重要なことで議論し、ここから、当然ながら、十字架の贖罪のことに展開し、更に、キリスト論へと議論が深められるならば、無駄ではないだろう。大いに聖書に聞きながら、徹底的に議論し、その結果の対立ならば、それはまた、意味があるだろう。



「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」
(近永教会牧師)

▼トルストイの『人生論』冒頭。粉ひきの男が、効率を良くしようと水車の手入れをする。そのために、水車の構造を調べ上げた。やがて、根本は水車を回す水にこそあると考えつき、彼は川の研究に没頭する。そして、いつの間にか、彼の水車は、回らなくなり、用をなさなくなってしまう。

▼私たちは、聖書を読み、神学を論ずる。しかし、何のためにそれを行っているのかを忘れると、水車が回らなくなるように、私たちの信仰も枯渇してしまうだろう。ゲーテはファウストにこう言わせている「無駄とは知つつ神学までも」。

▼各教区総会宛ての挨拶文で、山北議長が「正しい聖礼典の執行」を強調したことが波紋を呼んでいる。▼表面的なことに留まるのではなく、そも聖餐式とは何かという一番重要なことで議論し、ここから、当然ながら、十字架の贖罪のことに展開し、更に、キリスト論へと議論が深められるならば、無駄ではないだろう。大いに聖書に聞きながら、徹底的に議論し、その結果の対立ならば、それはまた、意味があるだろう。

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

主は、教会に明日を備えられるのは神であることを二・三節以下の野の花空の鳥の譬で示しておられます。大切なのは「あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」(12・24)。「今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」(12・28)。草や鳥と私たちの価値の比較ではありません。神にとって私たちちがどんなにかがえのない存在であるかということなのです。

願い・幻を共有する交わり

100 年を超えた伊豆諸島伝道

第39回伊豆諸島連合修養会

伝道の幻を熱く語り合う時

伊豆諸島には、大島・新島・三宅島・八丈島の四島に教団の教会・伝道所が五つある。宣教が開始されてから百年を超える島もある。大島元村教会と新島教会は今年創立九五周年を迎えた。

伊豆諸島連合修養会は始め、他の教会と交わることの少ない島の教会が、互いに励まし合うために会場を持ち回りに行われてきた。しかし、二三年前の三宅島の噴火以来、東京教区・東支区で島の教会を支える気運が高まって、会堂を失った三宅島の伝道再開のために三宅島伝道委員会が設置された。一九八六年には伊豆諸島伝道委員会と改称されて、教区と委員会主催のもとに伝道協議会や連合

修養会が、都市部の教職や信徒たちも加わって開催されるようになった。近年はことに教区や支区の婦人部の参加・協力が大きく、今回も島外参加者の65%を占めた。

今回の修養会は、大島元村教会（大森清一牧師）を会場に、都市部から四〇名の島部から四三名の合計八三名が集い、五月三三、四日の両日行われた。

開会礼拝で木下宣世牧師（西千葉・東京教区副議長）は、長く大島で伝道された白川藤太郎師の『伊豆大島伝道五十年史』を引用し、一九九〇年代から伊豆諸島や飛騨地方の伝道に尽力された「フスカンジナリア・アライアンス・ミッション」（旧同盟教会）の働きを紹介された。その中で、その創立者であり世界宣教者であったフレデリック・フランソンが、日本で最も伝道が困難な所・未伝の地に伝道しようと志したエピソードに触れ、この困難をものともせず一人を捜し求めていく伝道の熱情によって、そしてそれを受け継いだ信仰の先人たちによって島の教会は生み出された。その熱情の原点は主イエス・キリストの「大宣教命令」にある。それゆえ、何によって生かされてきたかを思い起こして伝道の幻を語ろう、と勧められた。



伊豆大島に 83 名が集い、伊豆諸島伝道の幻を語る

午後には、大島元村教会

の信徒のお宅に分散、十人程の八つのグループに分かれて、テーマ「大島（で）伝道の幻を語る」にもとづいて分団協議の時をもった。自己紹介しながら島の

信徒たちは島の現状と課題を、都市部の信徒たちも都市教会の現実と課題をそれぞれに語り、子供や高齢者がたくさん集まる教会・ひとりが大切にされる教会など、

この春新島教会に赴任して

課題は若い人達への伝道

新島教会に赴任して、早一ヶ月半になろうとしている。まず、新島教会について紹介します。新島教会は伊豆諸島の新島にある教会です。新島には教会が一つしかありません。現在の会堂は一九六七年に献堂されて約四〇年の歴史を

経ています。新島特産であるコーカ石を使った立派な会堂です。屋根の上には十六〇代が二名、五〇代が二

名、八〇代が一名です。この新島でも、教会員の高齢化がみられます。教会学校は時々四名程度の子も達ができます。教会

員であり元音楽の先生が子ども達に歌の指導をし、その豊かな交わりの時となった。夜には、教会紹介の楽しい時が与えられ、翌日は、早天祈禱会、分団発表会が行われ、横野朝彦牧師（番町）の閉会礼拝で締め括られた。（竹井真人報）



米倉美佐男東支区長の司式による就任式

三宅島伝道所集会の現状は

いつでもどこでも思いは同じ

先ずは、避難中のご支援に、お礼を申し上げます。ありがとうございました。いろんな意味でもとても励まされました。

二〇〇〇年の三宅島雄山の噴火によって、三宅島伝道所集会所も泥流と一緒に流されてしまったと思っていました。

とても素直でない自分がいました。避難して二ヶ月程過ぎた頃に、山田牧師が避難先まで訪ねてくださいました。とてもうれしかったです。その時に、あの時の驚きと感動はどこかへ行ってしまっ、空回りし、ただ右往左往していました。昨

年二月、避難解除になったときも、夫は「帰る」、私は「帰らない」と、意見の対立。帰島の手続きをしようとした夫に従うしかなく島に戻りました。帰島しても自分の家はガス高濃度地区なので今も仮住まいです。が、帰島して一年と二ヶ月。今はその夫に感謝しています。

噴火前、避難中、そして帰島後の集会をさらに支えてくださった先生方、教会員の皆さんの心に触れて、主の影を感じています。

先月、鎌川姉がお宅を開放してくださって交わりの時が持たれました。その席で鎌川姉より「保坂牧師がたいへんなご苦労の中で守られた教会が昭和五八年（一九八三年）の噴火で溶岩に呑み込まれてしまった」お話を伺いました。保坂牧師の時代のご苦労に比べ、噴火の状態の違いはともかく、今の自分は何となく同じような環境にいるのか。もしかしたら保坂先生は、いつも主と共にあって苦勞とは思ってはいなかったかもしれない。保坂牧師が三宅島のこの地に時かれたからし種を、今、東支区の先生方が苗木にまで育てようとして下さっている。



新島教会礼拝堂、子どもたちの歌声響く日を願う

相談したり報告したりの日です。これからの伝道の課題ですが、若い人達への伝道であると思います。新島には

高校まであり、子ども達も多く遊んでいる姿を見かけます。教会学校に少しでも多くの子どもが来てくれたらと願っています。

「伝道の書」に「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」という御言葉があります。子どもの頃は実らなくても、将来きまされた御言葉はその人の内に肥やしとなり芽を出す事もあるでしょう。島特有の良面と悪い面があると思います。教会員の方が新島に馴染むには一〇年かかると言っていました。経験による実感であると思います。島で伝道する牧師先生が経験に基づいてアドバイスをくださいました。人々に何かと言われるような事をしないという事でした。新島で伝道する以上心がけなければならない事である、思っています。（外山恵都子報）

帰島できない教会員の方たちもいます。が、いつでもどこでも思いは同じです。それぞれのおかれた地での癒しと守りと主の導きがありますように。主が共にいてくださる事を信じ、ヤベツの祈りを自分の祈りとして祈りきる事ができますように。ハレルヤ！主

に祈ります。河合先生、そして東支区の牧師の皆様が育てているからし種が立派に根を張る事ができますように。三宅島伝道所のための土地と建物が与えられますように。ハレルヤ！祈っています。（赤羽寛江報）



祈りの交わりに支えられて、写真中央が筆者

「キリスト教と人権」と題して発題

第 19 回神学校等人権教育懇談会

第十九回神学校等人権教育懇談会が六月五日午後一時より教団会議室で行われ、土井健司（関西学院大学神学部）、黒田裕（聖公会神学院）、横山義孝（東京聖書学校）、鈴木脩平（日本聖書神学校）、孫裕久（村伝道神学校）、柳時京（立教大学チャプレン）、竹前昇（日本基督教団総幹事）、宮田蒼夫（部落解放センター運営委員）、大久保正禎（日本基督教団王子教会、東谷誠（部落解放センター）、西村篤（同志社大学神学部）の十一名が参加した。

礼拝を大久保牧師が担当し、その後「キリスト教と人権」と題して小柳伸頭部落解放センター活動委員が発題を行った。「人権教育と



被災教会の現況について報告を受ける

関東教区の熱心の分かち合いを 第9回「新潟県中越地震」被災教会会堂等再建支援委員会

第九回「新潟県中越地震」において開かれた。被災教会会堂等再建支援委員会が六月六日教団会議室

（1）事務局報告

◎献金累計額（六月五日現

在九六、二七二、五三三円。このうち、四月一日以降の増加額は四、四三九、九四〇円。一六六件。

◎栃尾教会外壁工事費用一三六、五〇〇円を送金した。

◎「支援ニュースNo.5」を各教会、各教区総会に向けて送付した。

（2）関東教区報告

村田元中越地震被災教会・被災地支援センター統括主任から被災教会の現況について報告を受けた。

①長岡教会Ⅱ会堂、牧師館、教会墓地の修繕が終わり、新しい思いで、希望に満ちて二〇〇六年度を歩みはじめた。②栃尾教会Ⅱ教

会の内壁、外壁、基礎部分の修復工事がおおむね終わった。③十日町教会Ⅱ牧師館の取り壊しを昨年末に実施、近く建築が始まる。牧師館建築後会堂の補修、十日町幼稚園、山本愛泉保育園の補修・改修工事の予定。④見附教会Ⅱ地震で教会敷地の土壌が液状化し崩壊のため現在地での再建を断念。現在地から徒歩約五分の地に移転し、会堂・牧師館を建築することを昨年十二月の教会総会で決定。土地の取得契約、新会堂・牧師館建築の具体的協議が、熊江秀一牧師（代務者、新潟地区長、約二〇名の教会

員を中心に進められている。今年一年かけて計画、来春着工の予定である。⑤小出教会Ⅱ被災後、会堂牧師館の建設地について協議を重ねてきた。その結果、現在地での再建をめざすこととなった。今年は現会堂等の取り壊し、来春新会堂等の建築着工の予定である。

（3）支援計画

◎五月末に開かれた関東教区総会は、教団の中越地震会堂等再建支援募金に全力を挙げて協力すること、教団の募金目標額一億五千万円の五〇％、七千五百万円を関東教区諸教会・伝道所に目標額として取り組むことを決議、被災教会の再建に熱い心意気を示した。その取り組みの分かち合いをお願いする。

（樋田利明報告）



各々の状況を分かち合い継続的に学ぶ

は何か」ということに「歴史教育」「平和教育」「感性の教育」の三点から焦点をあて、歴史教育では田中正造をとあげた。田中正造が日本キリスト教史の中で注目されることがなかったことを指摘しつつ、どのような信仰者であったかを説明。また平和教育では阿波根晶鴻氏、ハロルド・リカード宣教師をとりあげ、各々の平和・反戦運動を紹介され、感性の教育では自身で差別と戦う方法を理論ではなく体験的に学んだことから、フィールドワークの必要性を訴えた。最後に賀川豊彦の「貧民心理の研究」「精神運動と社会運動」を取り上げ、賀川が何を現場で見ていたのかを問いつ

消息

小澤一雄氏（隠退教師）



五月一日、逝去。八〇歳。神奈川県に生まれる。一九五一年日本基督教神学専門学校卒業後、伊東教会に赴任。五三年から六六年まで三崎教会牧師、六九年から八六年まで米国、カナダで日系教会宣教師として務め、八七年から九二年まで旭川豊岡教会を牧会し隠退した。遺族は妻の芳子さん。佐々木忠一氏（別帳教師）



五月五日、逝去。九〇歳。福島県に生まれる。一九四一年青山学院神学部卒業、四二年同志社大学神学科卒業後、洛西教会に赴任。その後洛陽教会を経て五一年から五七年まで石神井教会を牧会した。遺族は妻の喜代子さん。

鶴岡 勇氏（隠退教師）



五月九日、逝去。八三歳。東京都に生まれる。一九五二年日本基督教神学専門学校卒業後、鎌倉教会に赴任。五六年から八八年まで銀座教会を牧会し、隠退した。遺族は妻の栄子さん。

事務局報

補教師登録

秋葉恭子、高承和、小友 睦、上野和明、小田島修治（二〇〇六・四・十受允）

春原真理（二〇〇六・四・二十四受允）

梅田憲章、中田美歌（二〇〇六・五・二受允）

神谷 宣、橋高 聡、工藤尚子、田中郷史、畑 昌子、臂 奈津恵、宮本幸子、奥園 淳、太瀬喜美子、橋本祐樹、藤吉文佳（二〇〇六・五・三受允）

中村充時、信岡茂浩、深谷与那人（二〇〇六・五・四受允）

掛石英樹、新保恵子、西間木公孝（二〇〇六・五・九受允）

中村謙一、小森裕之、伊藤英志、外山志都子（二〇〇六・五・十五受允）

山元克之、佐藤良司、北谷 顕、新堀真之、兼子洋介（二〇〇六・五・二十三受允）

稲垣真実、大矢真理、齋藤 篤、関谷慶太、仲野隆介、松島保真、河合佐紀、山田 裕、梁 在哲（二〇〇六・五・二十四受允）

正教師登録

片柳貞實（二〇〇六・四・二十四受接）

清水信浩、三浦亮平（二〇〇六・五・二受接）

大西英恵、水谷 憲（二〇〇六・五・三受接）

伊藤大道、うすきどり、

竹内 宙田代英樹、野口 智、藤浪敦子（二〇〇六・五・四受接）

石川宣道、濱田裕三（二〇〇六・五・九受接）

安達正希、生鳥陽子、岩河敏宏（二〇〇六・五・二十三受接）

南大阪 辞（担）岩河敏宏

湖山 辞（代）柏木和宣

丹原 辞（主）山下 光

水沢 辞（代）吉澤 永

牛久 辞（主）吉田良行

いずみ 辞（担）森田香代

堺清水橋辞（主）竹内のぞみ

彦根 辞（担）山本直樹

鹿島榮光 辞（代）柏井宣夫

岡山 辞（担）指方信平

旭東 辞（主）今井牧夫

長生 辞（主）服部能幸

伊勢原 辞（主）佐久本正志

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

就（主）桑 満欣

牧師のパートナー

私ども夫婦は、今年、結婚五二年になる。そのうちの四〇年は東京・葛飾の堀切教会に仕え、その後の十一年は、同じ葛飾区内でも北東端の水元の地で、自宅を開放して開拓伝道に従事。昨年、近くに小さな新会堂を与えられたばかりである。

しかし、改めて「牧師のパートナー」と言われるとちょっと考え込んでしまう。そもそも私は、結婚後の六年は学校の教師として、途中の二〇数年間は教会と同じ構内にあった社会福祉法人立の保育園の事務職員として勤務していたので、週日の教会の奉仕はほとんど出来なかった。加えてオルガンは弾けず、お花は活けたことがなく、料理は苦手で、「牧師の奥さん」に必要と普通だからから聞いた条件（？）を今に至るまで何一つ満たしていない。ただこの五二年、牧師である夫の一番身近にいて、一緒に生きてきた、いや生かされてきたというだけである。

私どもの住む葛飾区は、東京のいわゆる下町に位置し、小零細工

場（メッキ、研磨、ゴム、ガラス、玩具等々）や個人商店の多い地域である（現在は工場の移転・廃業等によりマンションも増えているが）。従って教会員も保育園児の家庭も、それぞれに厳しい生活問題を抱えており、信ずるということが生きるということと深く結びついている現実と向き合うことから、私どもの歩みは始まった。

そうした中で、一九七〇年代には、教会員が勤務する、障害者を多数雇用していた会社で、障害者三〇余名が会社側の虐待に耐えかねて寮を脱出、教会に駆け込み訴えをされ、役員会で協議の上、十日余り教会堂を宿泊場所として提

50 年、共に生かされて

齋藤 潤
(水元伝道所会員)

供したことがある。「のために」でなく、「と共に」ということが

キリスト者として問われた出来事でもあった。私は日中いろいろ手伝いながら、夜間、教会堂と牧師館との間のドアの鍵を一瞬閉め、また開けた。その間のためらいが今も痛く私の心に残っている。

また一九九〇年代初め、地域に増えた外国人労働者のうち、ナイジェリアのキリスト者が主日礼拝に出席するように

なり、やがて日曜日夕方に三、四〇名もが目国語での礼拝を守るようになった。私どもは急きょ日本語教室を開いたり不当解雇・給料未払い等への交渉を行ったりしたが、外国の地で、厳しい労働条件下、礼拝を大切に、仲間を思い合う姿に深く学ばされた。

そして水元に移ってからの十二年、全く新しい出会いがあり、支えられて、今、『教会』が新しく生まれようとしている。また、時を同じくして、全国教会婦人会連合の交わりにも加えられ、私の目は自分の教会のみへの集中から、支区・教区・全国へと広げられてきたように思う。

私どもは、性格も趣味も全く違う。ただ、たまの車での小旅行で運転席と助手席、横に並んで二人とも前を向いてというそのシチュエーションが私は結構好きだ。人に聞かれると夫は、私どもの関係を「戦友」という。確かにそれが「牧師のパートナー」ということでもあるのかもしれない。

こんな私どもを、忍耐と愛をもつて支えていてくださる教会の兄弟姉妹方、そして、すべての導き手、贖い主なる主に、心から感謝したい。



2005 年クリスマス。燭火礼拝のあと、夫婦で讃美歌を歌う

「監獄法」から「新法」へ 宗教教誨の問題と課題

教団全教誨師協議会・教区代表者会



去る六月二日、教団教誨事業協力会による教団全教誨師協議会・教区代表者会が開かれ（於高輪教会、各地から三八人が参加した。例年は一泊研修会だが、今年は前二日間「全国教誨師連盟創立五〇周年記念大会」があり、それに引き続いての会合である。

「記念大会には各教宗派教誨師が千人余参集した。教団山北宣久議長も、日本宗教連盟理事長として来賓祝辞を述べた。キリスト教教誨師はカトリックを含め諸教派から約百名が参加し、一夜「全キリスト教教誨師連絡協議会」も持たれた。

一九〇八年に制定された「監獄法」が百年ぶりに改正され「刑事施設及び受刑者の処遇等に関する法律」となり、今年五月に施行された。新法は、宗教教誨の意義や教誨師の立場が明確にされたもので、時代に即したのもとなったが、実際の運用や行政のあり方など、今後の課題もある。

教団では現在八〇余名の教誨師が各地の刑務所、拘置所、少年施設などで被収容者の宗教的ニーズに応え、ボランティア活動に従事している。「新処遇法」成立を受けて、「新法について思うこと」を協議会・代表者会の主題にした。

後宮俊夫教誨師（会長）による発題を緒に、各現場を踏まえて協議が行われた。多くの施設が過剰収容、被収容者の高齢化、犯罪形態の変化、さらに外国人収容者の増加などの問題を抱えていること、設置経営に民間が携わる新刑務所のあり方と教誨など、多くの課題が語られ、今後の宗教教誨への取り組みを探索した。各教区報告では、地域格差はあるものの教誨師活動が教区や地区の伝道委員会等の組織に位置づけられており、支援予算が計上されて、年毎に支援が強化されている状況が確認された。

教団伝道委員会が、助成金と「宗派負担金」などで活動を支えていることも感謝を持って報告された。

北海・沖縄両教区に教団教誨師が与えられることを祈り、これからも、新法はじめ様々な問題と課題に取り組む意欲を新たにしたい。

（土橋晃報）

「同志社神学協議会 2006」

- 主 題 「ルーツからヴィジョンへ～合同教会における会衆主義の課題と可能性～」
- と き 2006 年 8 月 28 日（月）～ 29 日（火）
- と ころ 同志社大学今出川寒梅館 1 階（旧学生会館）および関西セミナーハウス
- 講 演 原 誠さん（同志社大学神学部）
- 発 題 西岡昌一郎さん（旭川六条教会）
菅根 信彦さん（神戸教会）
小西 望さん（仙台北教会）

◎案内、申込書を必要とされる方は、下記実行委員会までご連絡ください。

◎参加申し込み〆切：7 月 29 日（土）

〒 621 - 0803 京都府亀岡市河原町 165 - 2 丹波新生教会
竹ヶ原政輝気付

「同志社神学協議会 2006」実行委員会

TEL：0771 - 23 - 0596 FAX：0771 - 23 - 2475

ジャワ中部地震救援募金のお願

主の聖名を讃美いたします。

ジャワ島中部を襲った去る5月27日の地震による災害は、報じられる度に犠牲者の数が増えています。ユニセフの発表では、家を失った人の数は13万にも及ぶと言われています。

WCCとルーテル教会世界連盟（LWF）でつくる人道支援組織 ACT は、そのメンバーである現地の教会や団体 YAKKUM Emergency Unit (YEU) (Church World Service) (CWS) Yayan Tanggul Bencana Indonesia (ATBI) による調査とそれに基づいて救援を行うための募金準備をすすめています。

日本キリスト教団でもそれにこたえることができるように、救援のための全国募金を行います。祈りをもってお献げ下さい。

集まった募金は ACT から右記の団体の救援活動のために用いられます。

▼募金期間 2006 年 8 月末まで

▼目標額 特に定めません

▼送金先 加入者名 日本基督教団社会委員会

郵便振替 001500121593699 (通信欄に「ジャワ中部地震救援募金」とお書き下さい)
2006 年 5 月 30 日

〒169-0005 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本基督教団社会委員会 委員長 小出 望

日本基督教団の土俵

私たちは、言うまでもなく、プロテスタント教会に属するキリスト者であるが、その信仰の大枠は、少々乱暴な表現をすると「聖書正典と信仰義認」の二つであろう。

しかし私たちは、より狭く、日本基督教団という教会に所属する。

従って、その場合の枠とは、前述の二つの枠を前提として、教会組織としての法や規約などが加わり、具体的には「教団信仰告白に立ち、教憲・教規に則る」ことになるのである。

このことは、キリスト者として

をし、「教憲・教規が、私たちの土俵」と言うのと、「傾く人」や、「不満顔の人」などの反応が現れる。

しかし、真正面からの反対はなく、批判をする人は、挨拶終了後に来られ、実際に A 教区で「副議長は、律法学者ですか」と言われたこともある。

私は、ガチガチの「律法学者」でもなく、現行規則にも現状に即していない部分があることも承知しているが、様々な対立や議論がある中で最低の一致は、ここにしかないと言わざるを得ない。

（教団総会副議長 小林 眞